

23 獅子唐草文袴 山鹿清華 一枚

昭和三年（一九二八）
絹、織・刺繍 径一八・九

24 円文白虎朱雀錦・狩獵文錦（図版は29頁）
（複製）△錦綾帖のうち▽ 龍村平蔵 二枚

昭和三年（一九二八）
絹、織 帖の一面三六・三×三〇・五

25 獅子狩文錦（複製） 龍村平蔵 一枚

昭和十五年（一九四〇） 絹、織 九六・五×七五・五

獅子の文様は、染織品においても古くから用いられ、多彩なバリエーションを見せている。日本における獅子文の流行は、大陸からの舶載品の影響を受けてのことであることは言うまでもないが、その初期のまとまった文様が、法隆寺や正倉院の遺品の中に多く見られる。最も有名なものが、法隆寺に伝来する「獅子狩文錦」であり、正倉院にもそれに類した狩獵文などの染織品が伝わっている。これらの古代染織品の文様は、明治に入ってから古器物保存活動の中で見直され、その織技や文様の復原が試みられた。

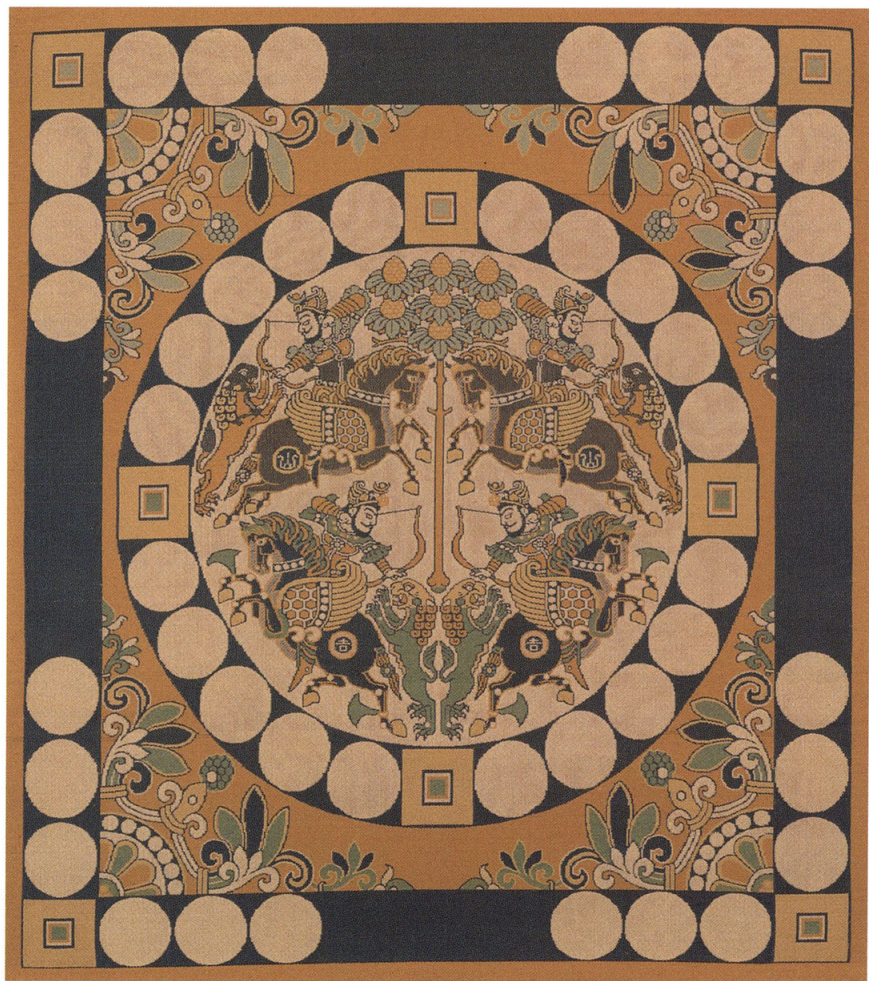
初代龍村平蔵（一八七六～一九六二）は大阪市の生まれ。十八歳で織物業を始め、明治三十七年（一九〇四）の内国製産品評会で二等賞牌を受賞。翌年、西陣に龍村製織所を設立し、美術織物の制作の一方、法隆寺や正倉院の古代裂、名物裂などの研究と復原を行って、織物業界に尽力した。出品番号24、25は、その龍村の復原品であり、西域の影響の濃い「獅子狩文錦」をはじめとする法隆寺伝来の古代裂である。四神の一つとしての白虎を表わす、虎の文様の早い時期の図様が窺える。

また、出品番号23は、西陣で図案、織物を製作して活躍した山鹿清華（一八八五～一九八一）による袴で、昭和三年に完成した昭和天皇御成婚記念の飾棚に飾られる工芸作品のための敷物である。伝統的な牡丹唐草に獅子の図様であるが、正倉院文様を参考としながらも、躍動感に溢れた近代的な獅子の姿が表される。高貴な方に関わる文様としての獅子の図様は、近代に至ってもなお、作者の個性で脚色され、表現され続ける。



印物園文白虎朱蒼錦
朱蒼錦

24



25

- ・各展覧会図録中，作品名や作者，制作年などの表記は，図録発行当時のものです。
- ・三の丸尚蔵館の展覧会図録の著作権はすべて宮内庁に属し，本ファイルを改変，再配布するなどの行為は有償・無償を問わずできません。
- ・三の丸尚蔵館の展覧会図録（PDF ファイル）に掲載された文章や図版を利用する場合は，書籍と同様に出典を明記してください。また，図版を出版・放送・ウェブサイト・研究資料などに使用する場合は，宮内庁ホームページに記載している「三の丸尚蔵館収蔵作品等の写真使用について」のとおり手続きを行ってください。なお，図版を営利目的の販売品や広告，また個人的な目的等で使用することはできません。

虎・獅子・ライオン

— 日本美術に見る勇猛美のイメージ

三の丸尚蔵館展覧会図録 No. 51

編集 宮内庁三の丸尚蔵館

制作 株式会社 東京美術

翻訳 横溝廣子

発行 宮内庁

平成二十二年七月十七日発行

© 2010 The Museum of the Imperial Collections